

“和食”日本人の伝統的な食文化 9割弱がユネスコ無形文化遺産への登録を評価

－ 日本公庫・平成25年度下半期消費者動向調査 －

日本政策金融公庫（略称：日本公庫）農林水産事業が1月に実施した平成25年度下半期消費者動向調査で、昨年12月にユネスコ無形文化遺産（世界遺産）に登録された「和食；日本人の伝統的な食文化」についての認知や評価について聞いたところ、8割が知っていると回答し、また9割弱が評価するという結果となりました。詳細は以下のとおりです。

<調査結果のポイント>

○ シニア層では9割が認知、20代では7割にとどまる(図1・図2)

「和食；日本人の伝統的な食文化」がユネスコ無形文化遺産（世界遺産）に登録されたことについての認知について聞いたところ、「知っている」が81.2%となり8割が認知している結果となった。年代別にみると、60代が90.3%、70代が87.3%とシニア層で9割に達した一方で、20代では67.1%と7割弱にとどまり、若い層での認知度の低さが目立つ。

また、ユネスコ無形文化遺産に登録されたことへの評価については、「評価する」が86.0%に達し極めて高い回答割合となった。男女別では、男性よりも女性で評価する回答割合が高い（男性83.0%、女性88.9%）。

○ 「一汁三菜」のバランス良い食事スタイルを評価(図3)

次に、「和食；日本人の伝統的な食文化」の特徴のうち、最も魅力を感じる点について聞いたところ、「ご飯、味噌汁、香の物、焼き物や煮物などで構成される一汁三菜を基本としたバランス良い食事スタイル」が26.3%と最も高い回答となり、次いで「明確な四季と表情豊かな自然が広がっていることにより、多様で新鮮な山海の幸を使用」が24.2%で続いた。

年代別でも、各年代ともおおむね全体と同様の回答傾向となっているが、20代では「魅力を感じない」の回答が11.6%とやや高くなっている。

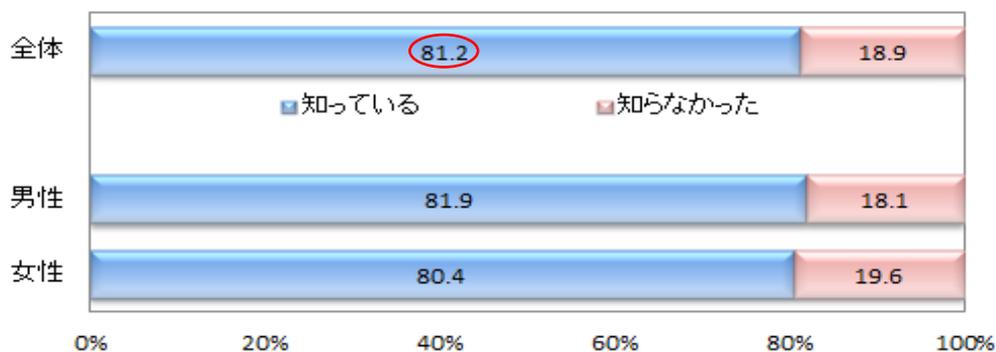
○ 食事マナーや郷土料理を保護していきたい(図4)

最後に、日本や地域の食文化のどのような点を保護していきたいか聞いたところ、「いただきます」や箸の使い方等の食事のマナー」が39.3%と最も高く、次いで「地域に根差した食材を用いた郷土料理」が30.7%で続いた。

調査時期	平成26年1月1日～1月14日
調査方法	インターネットによるアンケート調査
調査対象	全国の20歳代～70歳代の男女2,000人(男女各1,000人)

図1 「和食;日本人の伝統的な食文化」がユネスコ無形文化遺産(世界遺産)に登録されたことの認知

【男女別】



【年代別】

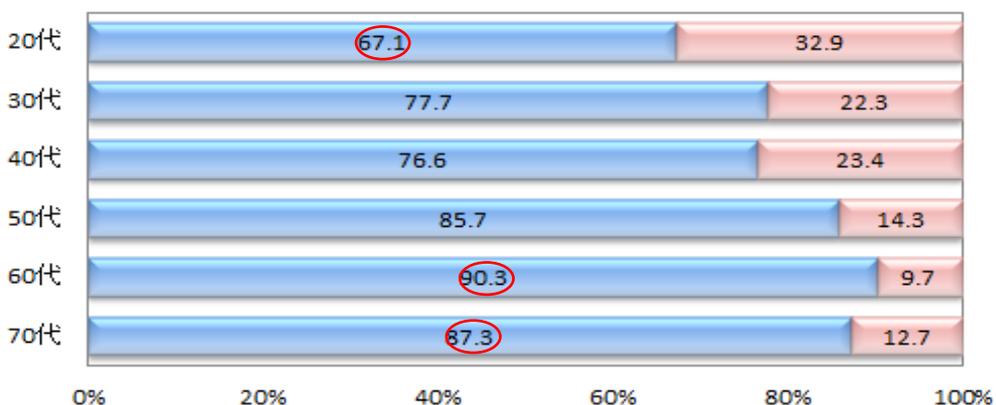
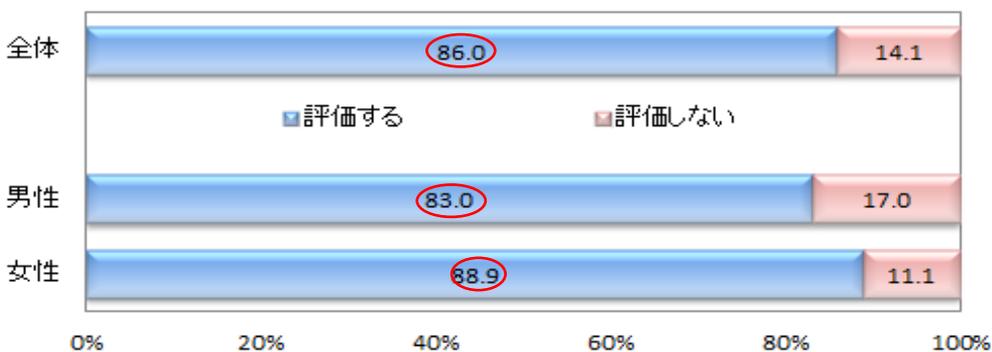


図2 ユネスコ無形文化遺産(世界遺産)登録への評価

【男女別】

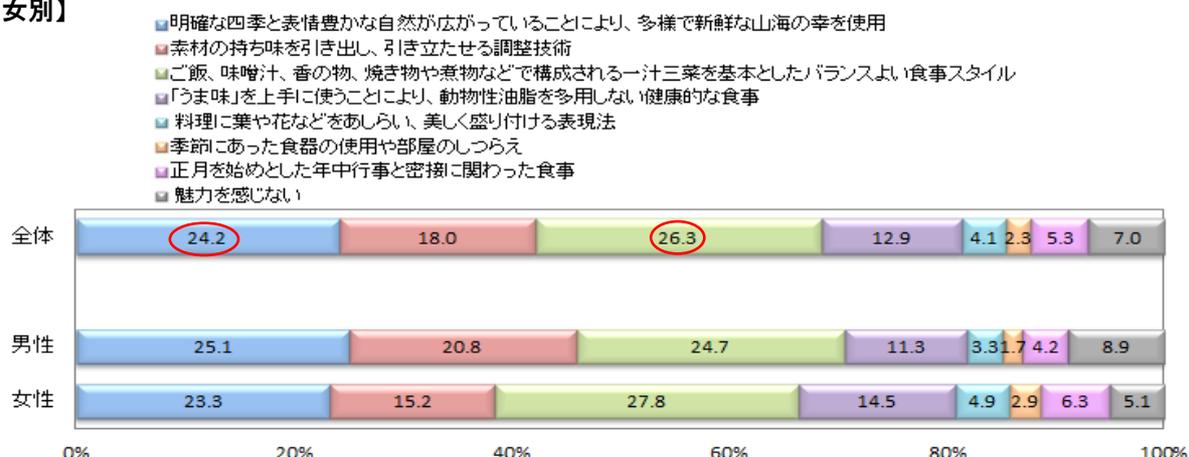


【年代別】



図3 「和食;日本人の伝統的な食文化」の特徴で、もっとも魅力を感じる点

【男女別】



【年代別】

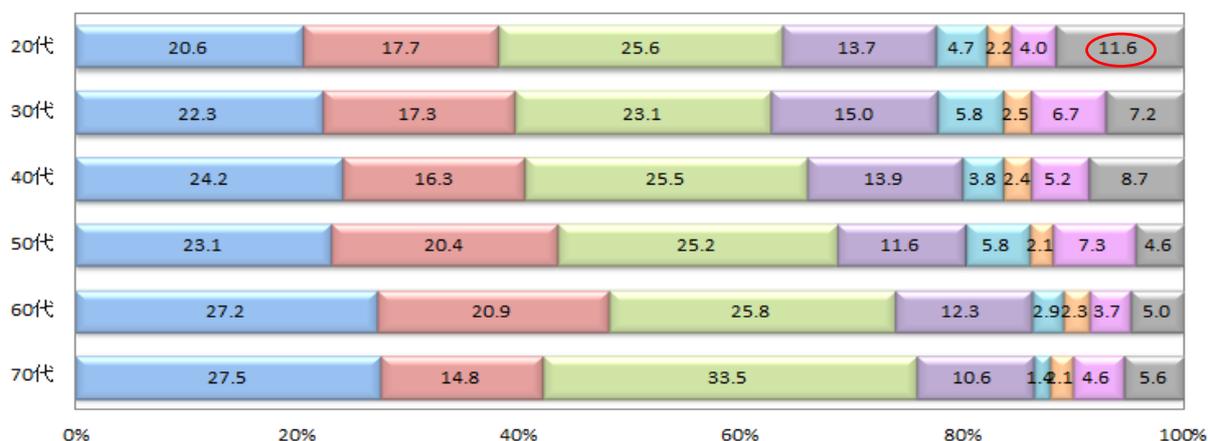
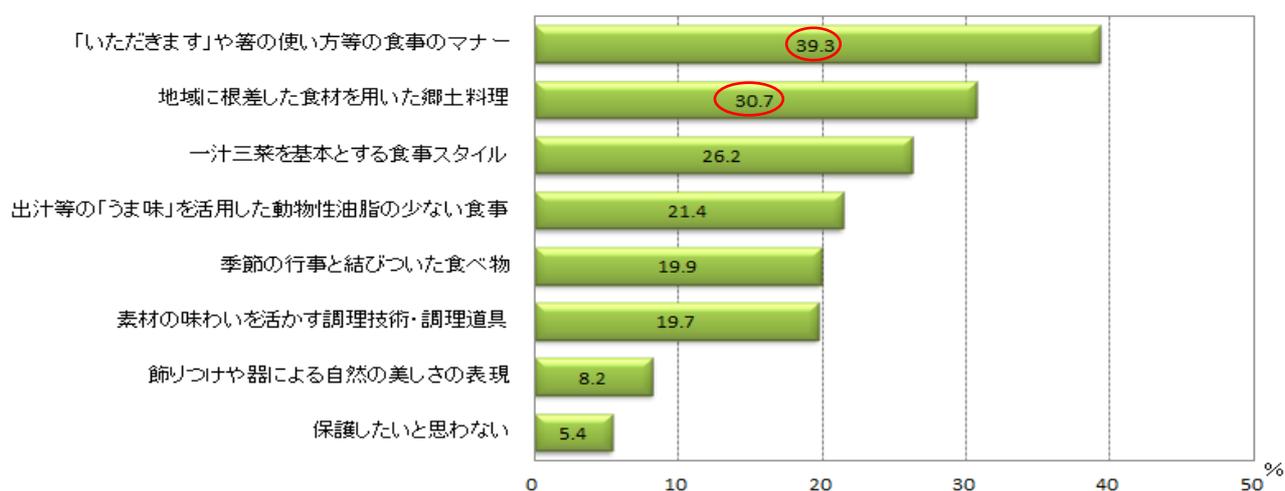


図4 今後、日本や地域の食文化のどのような点を保護していきたいか(2つまで回答)



※図1～図3について、比率(%)は表示前桁を四捨五入していますので、内訳の合計が100%にならない場合があります。